

令和 4 年度 市政運営の基本方針及び施策の概要		希望と笑顔があふれるまちの実現 ～「つながり」で創る協奏社会～		 広島県府中市
基本的な 考 え 方	○長期化するコロナ禍、毎年のように頻発する自然災害への対処、さらには脱炭素社会に向けた世界的な流れやDXなど、産業・市民生活・コミュニケーションのあり方といった社会の根幹に関わる大きな構造転換が起きつつある中、何よりも、市民生活や経済活動の土台である「健康・安全安心」、市民の皆さんが抱える「不安の軽減」にしっかりと取り組んでいくとともに、こうした歴史的な構造変化をチャンスと捉え、カーボンニュートラルなど新たな課題にも挑戦していく。 ○府中市発展の象徴であり市民の誇りでもある「恋しき」「翁座」の有効活用と波及効果の創出、上下の町並み保全、市民プール建設を視野に府中駅南エリア全体での集客力や拠点性・回遊性の一層の向上、「ドローン」のまち、教育子育てのまち」の進化、稼ぐ農業・稼ぐ中小企業へのチャレンジなど、府中市ならではのホンモノの価値を磨き、向上させていく「ブランディング」を強力に推し進める。 ○また、生涯にわたってスポーツと健康づくりを実践できる新たな仕組みづくり、産学金プロといった様々な主体との連携の発展、性別・年齢・国籍・障害の有無にかかわらず希望する生き方を選択し認めあえるダイバーシティや地域を核とした持続可能な自治振興・協働の仕組みづくり、DXを通じた満足度の高いサービスとコミュニケーション形成など、市役所のあらゆる分野において「つなぐ」「つながる」「つなげる」ことに徹底的にこだわっていく。			令和 4 年度当初予算額
	令和 4 年度施政方針（基本姿勢と方向性）			217.8億円 （前年度比△10.2億円）
力強い 産業	■コロナ禍により経営に影響を受けた事業者の事業継続支援について、引き続き国県の制度をフル活用しながら市独自の対応を柔軟かつ機動的に講じていく。■新たに中小企業・小規模企業振興基本条例を制定し、直面する課題やビジネス継続・拡大に向けた方策を官民一体で推進していくとともに、市独自の産業連係室のステップアップとして市内中小企業群の技術力を活かした共同受発注や技術習得の機能を有したプラットフォームの構築を視野に、希望する中小企業の皆さんと生産管理システムの導入など生産性向上の仕組みづくりをスタートさせる。■企業人材確保に向けて連携先大学や府中市出身者などをターゲットに、大学入学の早い段階から学生と市内企業とを「つなぐ」ふるさとワーキングホリデーと就活生・第2新卒者など市内就職希望者向けインターンシップとを組み合わせた取組を行う。■ドローン及び周辺サービス企業の集積によるビジネスチャンス獲得を目指し、実証実験の場の提供、相談、市内企業とのマッチングを行う推進体制を強化していく。■カーボンニュートラルも視野に、稼ぐ農業と農業関連ビジネス（アグリビジネス）の創出を目指し、プロ農家育成に加え、半農半X・体験農業をはじめとした多様な担い手の確保、農作業の共同化やスマート化、土づくりからの高付加価値化、マーケティングなど専門人材の確保や商社機能の構築に取り組む。併せて林業分野においても森林のゾーニングや経済循環の仕組みについて検討していく。			重点施策の主なもの
	■昨年7月に開設した「ちゅちゅ」に加え、令和4年度からは上下地域の子育てX高齢者介護X健康推進X障害福祉を包括したワンストップ相談を展開するとともに、障害者の働く場、学びや福祉人材の育成、地域の交流・賑わいの総合拠点として中山間地域の新しいモデルとなる「上下地域共生交流センター（仮称）」をオープンさせる。■子どもを取り巻くリスクへの予防的支援のため、県とともに開発しているAI見守りシステムの本格運用に向けて庁内体制や仕組みづくりを行う。■令和3年度に府中市独自で設置した「教育課程研究センター」を中心に取り組んでいる「ことば探究科」の全学年カリキュラム化を完成させ新しい学びのカたちとして全国に発信していくとともに、全市的に整備したICT機器を活用した授業改善、多様な学びをより進化させる。また、全国から高い注目を集めているコミュニティ・スクールの取組を教育内容や地域活性化と連動させるほか、校内軽食ブースの拡充、新たに放課後の学習支援を展開するなど、児童生徒の「学ぶ意欲」と「確かな学力」の向上に取り組む。■上下高校に配置した専任コーディネーターを中心に、大学、地域、市内企業の協力を得ながら、第一線の学習体験や上下高校ならではの魅力づくりに取り組むとともに、これまでの小中一貫教育の強みを軸に、幼保小、市内3高校との中高連携、大学・地域・産業界との連携といった切れ目のない学びを一層推進していく。			●府中版ネウボラの実現 ●子どもの予防的見守り支援事業 ●放課後ラーニング・サポート事業 ●特別教室等空調設備整備事業 ●上下高校の魅力開発と支援 ●地域の教育力の向上 ●パートナーシップ制度導入
人・ つながり	■オープン以来、月平均1万人超の集客を維持しているi-coreFUCHUでは参加者同士のつながりが芽生え、道の駅ではレストラン事業者の交代、「HAPPY SUNDAY MARKET」や「PicLike」の社会実験など新たなスポットが生まれつつある中、3年後の市民プールの建設をにらみ、府中駅南エリアの集客力・拠点性・回遊性をより高めていくため、i-coreFUCHUに新たなカフェの整備、道の駅産直市とレストランの魅力向上、PicLikeを通じた公共空間づくりなど、駅南エリアが生まれ変わる取組を進めるとともに、駅南北間の接続方策、エリア全体を統括するマネジメント機能のあり方の検討に着手する。■大型遊具の完成や学生コンペによるトイレ整備などポムポム周辺での新たな魅力づくりと連動させ、中心部との移動手段を確実にするとともに、回遊性を高める手法について様々な角度から便利で楽しく、ストレスフリーな移動手段の検討を行う。■「恋しき」の価値向上に加え、周辺の空き家・空き店舗を活用し、エリア全体で宿泊・食事などを提供する「分散型ホテル」の実現に向け、民間事業者と連携して、新規プレーヤーの獲得とリノベーションによる町並み全体の活性化を図る。■スポーツの持つ価値・可能性を最大限発揮させるため、市民プールや芝生グラウンドの整備を進めるとともに、EV&ゼロハンカー、市民マラソン、ドローンなどオンリーワンスポーツを推進する。特に、府中市発の新たな女子サッカーチーム設立やプロチームとの連携によるブランド力強化を図る。また、健康への関心が高まる中、子どもからお年寄りまで誰もが健康づくりやスポーツに親しめる生涯スポーツを根底に据えた新たなスポーツ推進組織の構築を目指す。■重伝建も視野に上下の町並み保全とブランド化のあり方を検討するとともに、現存する中国地方最古の木造芝居小屋「翁座」の段階的修復と観光資源としての活用を目指す。また、利用者の満足度の向上や稼ぐ観光の推進に向け、地域と連携しながら、魅力あるキャンプ場運営が可能な事業者の選定を行うほか、府中市ならではの「ライフスタイルツーリズム」の実現に向け、“食”や“歴史文化”、“ものづくり”、“アウトドア”にフォーカスした観光コンテンツの造成を促進する。			●i-coreFUCHUを活用した賑わいづくり ●グランドデザイン実現に向けたステップ ●民間事業者のノウハウを活用したキャンプ場づくり ●歴史的建造物の保存・活用事業 ●観光振興ビジョンの実現 ●歴史的財産保存・活用事業（備後国府跡） ●スポーツを活用した賑わいの創出 ●関係人口の呼び込みと移住定住促進
	■希望する人が、一日も早く安心して3回目及び小児のワクチン接種ができるようスピード感をもって取り組んでいくとともに、市保健師チームによる在宅療養者支援や食料・日用品パックの確保、抗原検査キットの独自調達等、感染予防と万一の療養生活での不安軽減に向けてあらゆる手段を講じるなど、医師会、保健所と緊密に連携しながらしっかりと取り組んでいく。また、市民総合アプリ「My府中」をはじめ様々な伝達手段で市民の皆さんに必要な情報を分かりやすくタイムリーに提供していく。■日常からの健康づくり・フレイル予防が何より大切であり、「生涯スポーツ・健康づくり」に親しめる仕組みづくり（再掲）に加え、新たにICTを活用した医療介護データと個人の健康評価を紐づけた「健康カルテ」を作成し、健康リスクの早期予防に取り組む。また、コロナ禍による受診・検診離れへの対策、オンラインと訪問の利点をミックスした新たなカタチのオンライン診療の構築を図る。■公立3病院との連携強化や湯が丘病院の建て替えに向けたハード面・経営面での取組、非常時において着実に判断し行動できる実践的な訓練や体制整備、中須ポンプ場整備、可搬ポンプの効果的な運用や個人が実施する止水板設置支援など自助・共助を組み合わせた総合的な浸水被害対策など、安全安心の基盤づくりを行う。また、少子高齢化対策・人口減少抑制に大きな要素を占める「住むこと」に焦点を当て、公営住宅が担う役割のあり方や官民が連携した住宅セーフティネット、成熟した団地の諸課題、子育て世帯、高齢者世帯、外国人といった属性に応じた住み方・住まい方について検証し、府中市に住みたい・住み続けたいライフスタイル重視の「住政策」を構築する。			●感染症ワクチン接種促進 ●内水浸水対策事業 ●地域防災力強化事業 ●上下地域共生交流センター（仮称）オープン ●フレイル予防・健康習慣事業 ●市民の健康づくり（健診）事業 ●湯が丘病院施設改築事業 ●住生活基本計画の策定
ICT都市 ふちゅう	■光ケーブル網の市内全域整備完了、新たな双方向型コミュニケーションツールである市民総合アプリ「My府中」など、令和3年度までにデジタルコミュニケーションのハード・ソフト両面のインフラを整備した。令和4年度以降は、DX基盤をより高度に活用して、市民サービスの質の向上と行政業務の生産性の向上を図る。■行政窓口での各種申請手続や相談など、ライフイベントに代表される錯綜した処理のストレスの軽減や、証明書発行に代表される簡単な申請処理のスピードアップ、複数の行政サービス拠点をオンラインでつなぐことによる提供サービスの質の向上を狙ったICT化を進める。■都市活動のシミュレーションや分析、防災などでの利活用も見据え、オープンデータ化を促進するため、県のモデル事業として府中市や県が保有する都市行政データの3D都市モデルの構築に着手する。			●リモート相談(多点間連携)構築事業 ●市民向け総合アプリ活用 ●市民総合窓口の構築 ●マイナンバーカード取得促進 ●3D都市モデルの構築
選ばれる	■府中市の認知度を高め、市内外からの共感協働を獲得する上で必要となる「伝える」こと、そして、そのための施策や事業をより深耕させていくため、新たに広報ディレクターを配置するとともに、市役所全体の広報に対する意識及びスキルを強化する。■多様な分野の企業、団体と進めている包括連携協定をより強化し、具体的な取組を拡充する。こうした取組の具現化や成果の発信を通じ、新たな連携先の獲得を目指すとともに、今後は、市内・近隣の企業、大学との連携協定などにも取り組んでいく。■少子高齢化に伴う世帯の減少、担い手の高齢化や確保などコミュニティの維持そのものが「待ったなし」の課題に直面する中、町内会、地区社協、民生委員児童委員など各組織と行政と一緒に地域づくりに取り組める「新たな地域協働・自治振興」の仕組みづくりに向けた議論をスタートさせるとともに、地域の拠点となる公民館の改革と機能強化に着手する。■i-coreFUCHU、PicLike、観光・農業振興の取組を通じ、新たなアイデアやプレーヤーの獲得、人材ネットワークが生まれつつある。こうした萌芽をより力強いものとし、「府中はおもしろい、何かできる」を府中市のブランドにできるよう、市内外から意欲ある人材のユニークで先導的な提案を募り、その事業化を支援する「府中市ハッカソン」をスタートさせる。			●地域おこしハッカソン企画業務 ●広報の体制強化 ●包括連携協定先との積極的な事業展開 ●HPリニューアル ●地域の教育力の向上（再掲）

基本的な
考え方

- 市民生活や経済活動の土台である「健康・安全安心」、市民の皆さんが抱える「不安の軽減」にしっかりと取り組み、カーボンニュートラルなど新たな課題にも挑戦していく。
- 府中市ならではの価値を磨き、向上させていく「ブランディング」を強力に推し進める。
- 市役所のあらゆる分野において「つなぐ」「つながる」「つなげる」ことに徹底的にこだわる。

令和 4 年度当初予算額

217.8億円
(前年度比△10.2億円)

令和 4 年度施政方針（基本姿勢と方向性）主なもの

力強い
産業

- 中小企業・小規模企業振興基本条例を制定し、共同受発注や技術習得の機能を有したプラットフォームの構築を視野に、生産性向上の仕組みづくりをスタートさせる。
- 稼ぐ農業と農業関連ビジネス（アグリビジネス）の創出を目指し、担い手確保、共同化・スマート化、高付加価値化を進める。

人・
つながり

- 「ちゅちゅ」に加え、中山間地域の新しいモデルとなる「上下地域共生交流センター（仮称）」をオープンさせ、府中版ネウボラの充実を進める。
- 放課後の学習支援の展開、特別教室等空調設備の整備など、児童生徒の「学ぶ意欲」と「確かな学力」の向上に取り組む。

活気・
賑わい

- 昨年 7 月にオープンしたi-coreFUCHU、HAPPY SUNDAY MARKETやPicLikeなど府中駅南エリアで新しく芽生えている賑わいに、市民プールの建設、i-coreFUCHUへ新たなカフェの整備、道の駅レストランの魅力向上などを加え、駅南エリアが生まれ変わる取組を進める。
- スポーツの持つ価値・可能性を最大限発揮させるため、市民プールや芝生グラウンドの整備を進めるとともに、新たなスポーツ推進組織の構築を目指す。

安全・
安心

- 3 回目及び小児のワクチン接種ができるようスピード感を持って取り組み、医師会、保健所と緊密に連携して感染予防と万一の療養生活での不安軽減に向けてあらゆる手段を講じる。
- 日常からの健康づくり・フレイル予防のために「健康カルテ」を作成し、健康リスクの早期予防に取り組む。
- 中須ポンプ場の整備、地域防災力の強化など安全安心の基盤づくりを引き続き行う。

ICT都市
ふちゅう

- DX基盤をより高度に活用して、市民サービスの質の向上と行政業務の生産性の向上を図るため、複数の行政サービス拠点をオンラインでつなぐICT化を進める。

重点施策の主なもの

事業費：11,000千円

- ものづくり高度連携促進事業【4,800千円】
- 農業振興ビジョンの実現【4,200千円】

事業費：99,823千円

- 放課後ラーニング・サポート事業【11,520千円】
- 特別教室等空調設備整備事業【7,150千円】

事業費：669,606千円

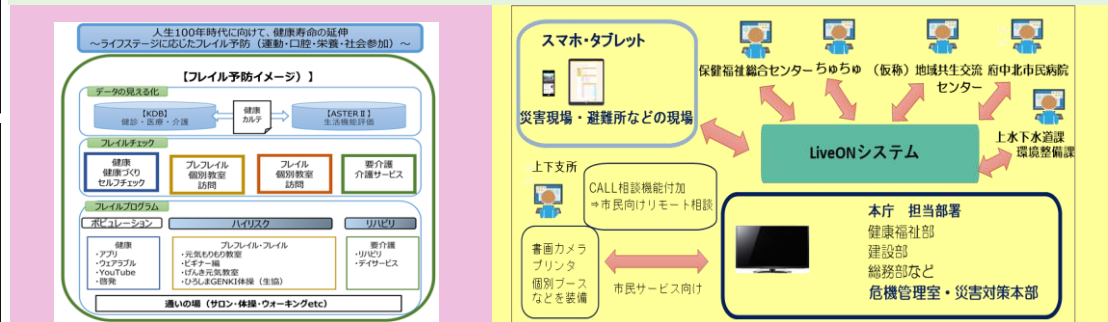
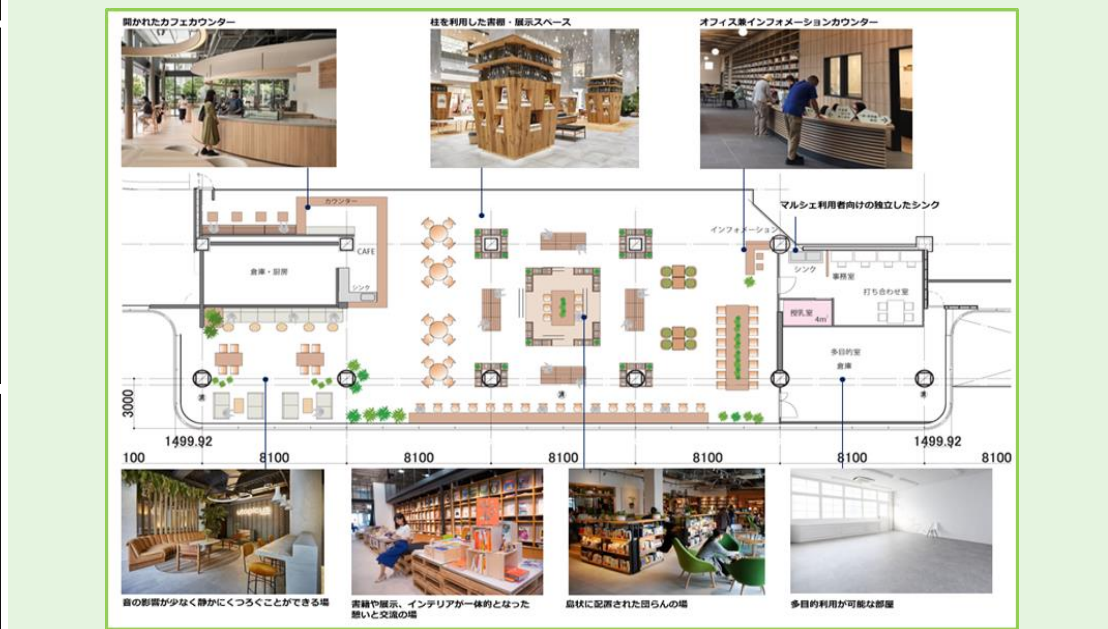
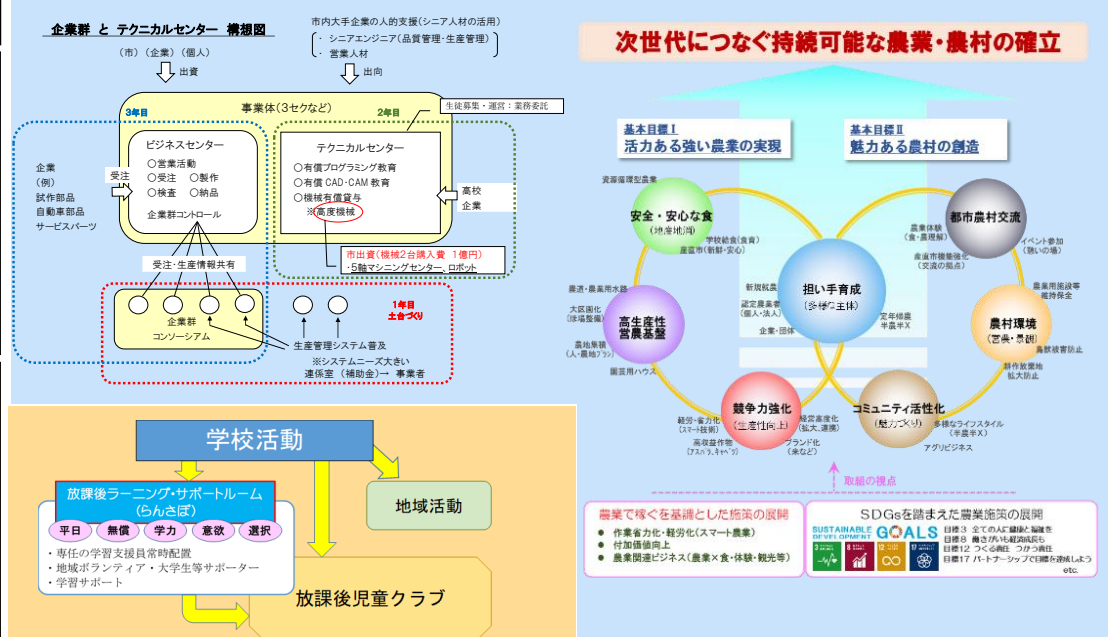
- 駅周辺賑わいづくり【261,984千円】
※市民プール5,500千円含む。
- スポーツを活用した賑わいの創出【361,308千円】

事業費：201,227千円

- フレイル予防・健康習慣事業【51,354千円】
- 内水浸水対策事業【16,956千円】

事業費：20,526千円

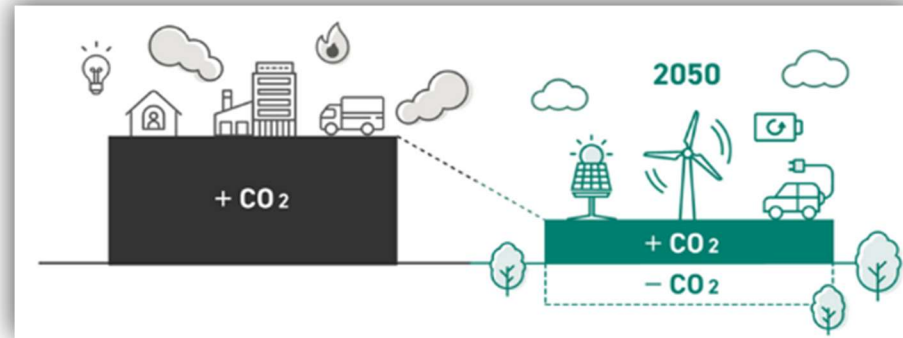
- リモート相談(多点間連携)構築事業【20,526千円】



カーボンニュートラルの推進

【基本的な考え方】

- 脱炭素社会の実現に向けた世界的な流れが巻き起こっており、我が国においても、2050年までに二酸化炭素排出量を半減させるという国際公約のもとカーボンニュートラル、ゼロカーボンの政策が大きな柱として示されている。
- 既に経済界においては、自動車産業ではEVカーへのシフトといった構造変化への対応、個々の企業が取引を継続する条件として取引先や融資先から省エネ率達成や再生可能エネルギーへの転換が求められるなど、今後の事業継続に関わる大きなルールチェンジに直面している。
- 今回のカーボンニュートラルの流れは、産業構造そのものや商取引ルール、さらには雇用・消費行動の変容など市民生活にも影響する大きな構造変化であり、一部の企業、一部の市民だけで取り組んでいく問題ではなく、なっており、行政・企業・市民を挙げてのムーブメントとして位置付けていく必要がある。
- 同時に、これまで「儲からない」「担い手不足」など構造的な課題にさらされてきた林業・農業分野においては、森林や農地(「グリーン」「アグリ」)が、二酸化炭素吸収源として改めて注目される時代がきており、林業・農業の再生、山や農地にヒト・モノ・カネが循環する地域経済システムの仕組みづくりに向けた好機でもある。
- カーボンニュートラルという大きな構造変化をチャンスと捉え、二酸化炭素の排出抑制と吸収源対策の2つの側面を基軸に、「市役所の取組の推進」「市内企業の後押し支援」「市民・企業のムーブメントの形成」の3つの柱を念頭に、府中市としてのカーボンニュートラル政策を構築する。



【取組の方向性】

- 令和4年度に、新たに政策企画課をヘッドにした横断的な市内プロジェクトチームを立ち上げ、

- 1 省エネ、再生エネルギー活用、DX推進など市役所自らの取組の推進(一部着手)
- 2 市内企業の取組や課題解決の後押し支援
- 3 未利用材、間伐材を活用した木質バイオマス
- 4 エコ・グリーンビジネスなど、観光・地域振興を組み合わせた農林業の再生
- 5 消費行動、CSRなど市民・企業参加型の資金調達、資金循環の方策

…などについて調査検討を進め、実施可能なものから実行していく。そのために、

- 大学、金融機関との連携協定を含め、外部・有識者からの知見を積極的に獲得する。
- 府中市環境基本計画10か年の中間見直しにあわせ、二酸化炭素排出量、エネルギー消費量など基礎データを収集整理する。

DXの推進

【これまでの取組】

① 「つながる」の一步(令和2年度～)

- 光ファイバー網全域整備
- 総合型アプリ「My 府中」
- 防災ダッシュボード

② 「つながる」の実現(令和3年度～)

- 子守りAI「府中っ子」稼働
- 小・中学校校務支援システム稼働
- 保育所園務システム稼働
- フレイルプログラムの展開

【令和4年度の取組】

③ DXによる刺激の創造

感染症の拡大によって人と人との「つながり」に物理的距離が求められるなか、いかにして人と人がつながるか、情報をどのように共有するのかという課題を解決するため、これまでの取組をさらに進化させる。DX(Digital Transformation)が与える刺激により、新たなコミュニケーションを創造する。

これまでの
取組を
発展させる

